

花のまちづくり・みどりいっぱい運動 春苗リスト

比較的、暑さや乾燥に強い種類ですが、日当たり・水はけ・風通しのよい場所で育ててください。夏場は、水切れにご注意ください。

種類	栽培管理のポイント
マリーゴールド (キク科)	枯れた花はこまめに摘み取ります。 暑さで、花が咲かなくなったら「切り戻し」を行い、肥料を施します。
サルビア (シソ科)	古い葉、花がらをこまめに摘み取ります。花後は、4～6枚残し、花穂を切り取ると新芽が伸び、再び開花します。 花つきが悪くなったら、半分程度に「切り戻し」を行い、肥料を施します。
ブルーサルビア (シソ科)	古い葉、花がらをこまめに摘み取ります。花後は、4～6枚残し、花穂を切り取ると新芽が伸び、再び開花します。 花つきが悪くなったら、2/3程度に「切り戻し」を行い、肥料を施します。
ペゴニア (シュウカイドウ科)	高温多湿で蒸れることがあるので、間隔を確保し、密植しないようにします。乾かし気味に管理した方がよく育ちます。 「切り戻し」を行い、肥料を施すと新芽を伸ばし、再び開花します。
ニチニチソウ (キョウチクトウ科)	乾燥に強く、多湿・弱光に弱いので、十分な日当たりを確保し、水はけに配慮してください。常に湿った状態におくと、根腐れをおこして立ち枯れることがあります。茎が伸びすぎたら、短く切り戻し肥料を施します。 *以前、植栽した結果、生育がよくなかった場所はおすすめできません。
ポーチュラカ (スベリヒユ科)	高温・乾燥気味の環境を好みます。花は、日光を浴びて開く「一日花」です。(曇りの日は開きません)しぼんで枯れた花がらはこまめに取り除きます。間延びした茎は、切り戻して脇芽を生長させます。繁殖力が強く、挿し芽で旺盛に増えます。

栽培管理キーワード

「花がら摘み」

枯れた花をそのままにしておくと、湿気で腐ったり、タネができて株の栄養がとられてしまいます。枯れた花をこまめに花茎ごと切り落とすことで、次の開花が進みます。

「茎葉の間引き」

茎葉が茂り過ぎて混みあうと風通しが悪く、蒸れてしまい、生育が弱くなって開花も途切れてしまいます。混みあっている部分は、摘み取って風通しを良くします。

「切り戻し」

花後や、夏場の暑さで生育が衰えて花が咲かなくなった場合などには、草丈を半分程度に切って短くすると、再び花をつけるようになります。生長のため肥料を与えます。

「摘心(てきしん)」

芽の先端を摘み取ると、下の方から数本の茎が伸びてきてバランスよく茂り、花芽も多くなります。

「根腐れ」

水をやり過ぎて、根が常に水に浸かっている状態にすると、呼吸ができなくなり根が腐って枯れてしまいます。表土が乾いた状態となってから水やりをします。